

# あわみなと通信

暮らしを支える港湾と空港の話

季節もずいぶん春めいてきました。

皆さま、如何お過ごしでしょうか。あわみなと通信の春号をお届けします。

今号は、当事務所の主な事業についての概要をお知らせしています。

徳島小松島港は古くからのみなとであり、港湾施設の老朽化への対応が喫緊の課題となっています。既存の施設を改良するという工事は、新たに造るのとはまた違った難しさがあり、利用者の皆さまと調整しながら、また、一部にプレキャスト工法を採用するなど、現場での生産性も上げつつ早期の機能回復、向上を目指したいと考えております。

さて、今日は東日本大震災から8年目の日、現地の再生、復興をお祈りするとともに、南海トラフ巨大地震、津波に対する備えについて改めて考え、新たな気持ちで次の年度に向かいたいと思います。

平成31年3月11日 小松島港湾・空港整備事務所長 小田 幸伸

## プレキャスト工法

プレキャスト工法とは、現場で鉄筋の組み立てやコンクリート打設を行う現場製作工法に対し、予め工場等で製作したコンクリート部材を現場に搬入、組み立てを行う工法です。工場等で作成することから、複雑な形状部材であっても安定して品質を確保でき、また、工期の短縮、施工性、安全性の向上といったメリットが期待できます。

金磯地区では、栈橋の一部にプレキャスト工法を採用することで、前垂れ部の品質確保(海中部でのコンクリート打設を回避)、床板の施工性、安全性の確保(型枠や支保工を撤去するための開口部を確保)を図っています。

### 前垂れ



前垂れ据付



前垂れ据付完了

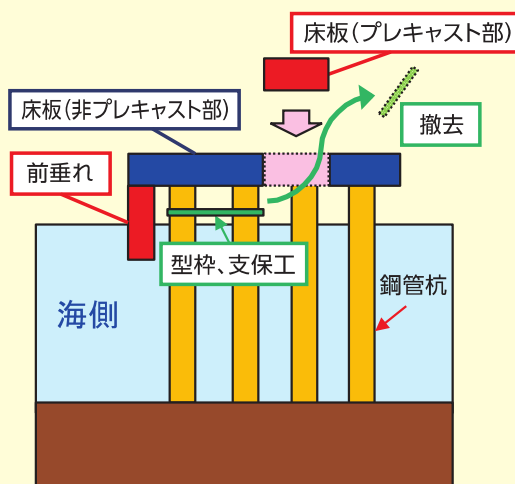
### 床板



床板据付



床板据付完了



栈橋式岸壁イメージ